

社会科（歴史的分野）学習指導案

平成○年○月○日第○校時
○○○中学校 1年○組○名
指導者 ○○ ○○ 印

1 単元名 古代までの日本

2 単元設定の理由

(1) 教材観

この時代は原始のころから大和朝廷による統一が進み、隋・唐の制度を取り入れて律令国家の建設を成し遂げた時代である。また対外的には、朝鮮半島に足がかりを作った倭の勢力が、唐・新羅の台頭により撤退を余儀なくされながらも、遣隋使・遣唐使の派遣により積極的に制度・文化を取り入れた時代でもある。国内・国外の様々な困難を克服しつつ、律令国家が完成し古代社会が成立していった。

本単元は、政治・外交・文化・生活の側面から古代社会発展の様子を多面的に捉えさせることができる。また、時代を大観し表現する学習として、律令国家成立の過程を捉えさせることができる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は入学当初から歴史に対する興味関心が高く、授業中の挙手発表も積極的である。歴史的事象についての知識が豊富な生徒も多く、授業中の発言にもそれが現れ、活発な学習を進めている。しかし、それらの知識は断片的であり、事象相互の関連性や因果関係などを捉え、理解できている生徒は少ないと思われる。また、人物とその業績などは知っていても、時代の順序や、他の時代との違いを捉えておらず、時代の流れを「線」ではなく「点」として捉えている者が多い。

その結果、日本の社会が発展する様子を、時代の流れとしてつかんでいるとは言い難く、また、学習している時代がどのような時代であるかという時代観も十分に持つことができていない。このような課題を解決するため、歴史学習では年表を活用し、「今、いつ頃の何を学習しているのか」を意識させて取り組んできた。

(3) 指導観

本単元では、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成され、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられていったことを理解させる。そのために、日本の古代国家がいかに形成されていったかを常に意識させるとともに、歴史的事象の知識の習得にとどまらず、事象間の関係や歴史的事象の意味や意義を生徒同士で意見交換することを通して追究させることで、深く理解させる。それにより、古代までの日本の時代の特色をつかませたい。

3 単元の目標

(1) 古代までの歴史的事象に対する関心を高め、古代までの様々な歴史地図や資料を適切に読み取り、律令国家の確立に至るまでの過程について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。

(2) 我が国で国家が形成され、発展していった古代までの特色などを、世界の歴史を背景に理解できる。

4 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①古代国家の確立や国際的な要素をもった文化など、古代までの歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、古代までの特色を捉えようとするとともに、古代までの文化遺産を尊重しようとする。	①大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりや、古代社会が発展する様子とその変容などについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりなどに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	①東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成され、発展していったことを理解し、その知識を身に付けている。

5 指導計画

第1次 文明のおこりと日本・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7時間

第2次 中国・朝鮮の統一と日本の律令国家の成立・・・・・・・・ 3時間

第3次 律令国家の発展と古代の文化・・・・・・・・・・・・・・・・ 5時間 (本時 4 / 5)

(評価計画を含めて書く場合)

(全14時間)

次 程	ねらい (第○時)	主な学習活動・内容	資料	評価方法と【評価規準】
第 1 次	人類の進化と世界の文明をもとに、縄文時代や弥生時代、古墳時代の特色をつかませる。(①～⑦)	旧石器時代・新石器時代を通して人類がどのように道具や暮らしを進歩させたかを調べる。 日本に大きな影響を与えた中国文明を中心に各古代文明の共通点や相違点を調べる。 縄文時代や弥生時代、古墳時代それぞれの特色を考える。	歴史地図 石器や土器の写真	ノートの記述内容から、「人類の進歩の過程に関心をもって追究しようとしているか」を評価する。 【関－①】 ワークシートの記述内容から、「縄文時代や弥生時代、古墳時代それぞれの特色を捉えているか」を評価する。 【思－①】
第 2 次	隋や唐の影響を受けて、律令国家が形成される過程をつかませる。(⑧～⑩)	中国や朝鮮半島の統一国家の特色と日本との関係について調べる。 日本がどのようにして律令国家となったのかを中国の影響を背景にして考える。	歴史地図 十七条の憲法 律令のしくみ	ワークシートの記述内容から、「中国や朝鮮半島の統一国家の特色と日本との関係を読み取っているか」を評価する。 【技－①】 ワークシートの記述内容から、「日本がどのようにして律令国家を成立させたかを捉えているか」を評価する。 【思－①】
第 3 次	律令国家が発展していく過程を通して、奈良時代と平安時代の政治と文化の特色および古代までの時代の特色をつかませる。 (⑪～⑮本時⑭)	奈良時代の政治と文化の特色を調べる。 平安時代の政治と文化の特色を調べる。 日本の古代までを自分なりに区分することで、古代までの時代の特色を考える。	平城京 平安京 税の制度 当時の文化財	ワークシートの記述内容から、「古代までの我が国の国家の形成と発展の過程を理解しているか」を評価する。 【知－①】 ワークシートの記述内容から、「日本の古代までを自分なりに考えて区分しているか」を評価する。 【思－①】 ワークシートの記述内容から、「古代までの時代の特色を意欲的に追究しようとしているか」を評価する。 【関－①】

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- 政治や外交などの特色を踏まえて作成した古代社会の区分をグループで発表し合い、他者の作品を基に自分の区分の修正方法を考えることができる。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
10分	1 古代の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。	○視覚教材を用いて復習させ、学習意欲を喚起する。 ○班での学習の進め方や役割分担について確認する。		
古代のオリジナル区分を作ろう！				
20分	2 班で古代の区分を作成する。	○ホワイトボードを有効に使えるようアドバイスする。 ○班で発表する際、根拠を明確にし、歴史的事象の前後で社会がどのように変容しているかを明らかにさせる。 ○政治や外交、文化、民衆の生活など様々な面に目を向けて作成させる。 ○発表シートを参考にさせ、論理的な発表ができるようにさせる。	個人のワークシートには、前後で社会が変容している歴史的事象が取り上げられ、その違いを短い文で説明できている。 【思-①】	ワークシート
15分	3 全体で発表し、意見交換をする。	○2～3班に発表をさせ、参考になったところや、疑問に思ったことを話し合わせる。 ○自分の区分の修正点をメモさせる。		
5分	4 本時のまとめを聞く	○同じ古代でも時期によって政治の進め方や制度が異なり、その違いに気づくことが大切であることを伝える。		

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	政治・外交・文化・民衆など複数の側面から、社会が変容する事象を取り上げ、事象前後の違いを説明できている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	基本的な歴史的事象の内容を活用シートを使って説明し、具体的な事象を取り上げて社会が変容している例を示す。